

# 視 察 報 告 書

議会運営委員会 委員長 土田 弘之宣

委員会：議会運営委員会

期 間：令和元年7月9日（火）～ 7月10日（水）

視察都市等及び視察項目

- 1 滋賀県大津市：議会が制定した条例等、政策形成におけるPDCAサイクルの運用方法及び市民の声を政策に活かすための広聴機能の強化について
- 2 岐阜県可児市：市民意見を政策に反映させる仕組み（政策形成サイクル）について

## 【概要】

### 1 大津市議会

視察項目：議会が制定した条例等、政策形成におけるPDCAサイクルの運用方法及び市民の声を政策に活かすための広聴機能の強化について

#### （1）政策検討会議（大学との連携）について

- ・議員提案による条例制定などを目指したスキームであり、議会からの政策提案のために、テーマを出した提案会派等が座長を務め、各



会派から選出した議員で構成する

- ・ 議会運営委員会で交渉会派から提案がされ賛同を得られた場合に設置
- ・ 各会派から1名程度で基本的に提案会派から座長を選出する
- ・ 執行部からの助言、参考人招致、公聴会の開催を必要に応じて活用する
- ・ 地域連携協定（パートナーシップ協定）を締結している大学の専門家からの助言などの支援を受ける

## （2） ミッションロードマップについて

- ・ 目的としては、議会基本条例の「具現化」、議会活動に対する市民への「説明責任」、市議会の「見える化」
- ・ 毎年1回3月に議会運営委員会において検証・評価し、最終年度は、外部の視点も取り入れ検証・評価することにより、進行管理を行っている。
- ・ テーマとして、「政策立案」（条例制定、行政検証、施策提案）と「議会改革」（機能強化、住民参画、議会運営、広報公聴）があり、4年間のスキームで実行

## （3） 政策形成サイクルについて

- ・ 議会活動評価制度として議員個人の評価（一次評価）、一次評価を踏まえた各会派での協議による取りまとめ（二次評価）があり、最終的に議会運営委員会で評価の分かれた部分や見解の異なる部分について協議し、議会としての評価及び今後の方向性・改善策を決定する

- ・評価項目は、議会の機能強化、政策立案、情報公開（広報）、市民参加（広聴）の4項目
- ・「次期議会へのメッセージ」として議員任期の最終年度に実施した「市議会としての自己評価」と「外部有識者による検証」を踏まえ、今後の方向性やあり方について精査を行い、今後の課題等となっているものについて①ミッションロードマップ関連②議長公約関連③議会活動外部評価関連の3つに分けて前議長から次期議長への申し送り事項として引き継ぐ

## 2 可児市議会

視察項目：市民意見を政策に反映させる仕組み（政策形成サイクル）について

- (1) 「正副議長立候補制度」として議場にて所信表明演説を実施している。



- (2) 「議会改革のためのアンケート調査」を実施し、厳しい現状と議会改革を進める必要性を再認識した。

目的：市議会の現状を調査するため

対象：20歳以上の市民2,000人

予算：政務活動費（全議員が支出）

調査結果：回収数 8 1 0 件、回収率 4 0 . 6 %

市議会に関心がない 3 6 . 7 %

議員の活動内容を知らない 6 4 . 2 %

市民の声が市議会に反映されていると感じている 6 . 4 %

(3) 「4つのサイクルアニュアルプラン」として①議会運営サイクル②予算  
決算審査サイクル③意見聴取・反映サイクル④若い世代との交流サイク  
ルがあり、以上4つの民意を反映する政策タイムラインを策定している。

<具体例>

建設中の駅前子育て拠点施設に関して「意見聴取・反映サイクル」の  
中の「ママさん議会」にてワークショップを行って意見を集約し、子  
育て支援課へ意見や提言を行い、銀行ATMの設置や施設内で飲酒等  
ができるようにという要望が実現

(4) 「委員会代表質問」を行っており、豪雨時における災害情報の発信問題  
(避難勧告発令が市HPでの広報遅延、災害対策本部の体制の問題) に  
ついて総務企画委員会として代表質問を行った結果、執行部の体制整備  
(メール配信サービスのHPでの確認が可能に、「FMらら」の割込放送、  
エリアメールが開始) により住民福祉が向上した。

(5) 「議会報告会」では、グループごとに「議会だより」を報告に活用し、

意見交換を行い、最後に結果を共有する。

- (6)「地域課題懇談会」として高校生議会を開催し、「多職種間連携教育」による意見交換や「健康づくり」をテーマに医師会の協力を得た意見交換など、グループ討議を行っている。また、「どうしたら選挙に行くのか」をテーマに開催し、アンケート結果から投票意欲があっても「選び方」が分からない生徒がいることが若者の投票率が低いことに繋がっていることが分かり、「選ぶ力」をつけるために、本物に近い模擬投票を実施した。その結果、H28年参議院議員選挙で18・19歳の投票率が53.3%となり、今後、18歳選挙権の啓発を継続し、10年後には全年代の投票率が1.92ポイント上昇するという予測を立てている。

#### 【7月19日議会運営委員会 意見交換内容】

視察途中に、委員間で視察内容に関する意見交換を行いたい旨の申し出があり、7月19日に議会運営委員会を開会し、委員から所感等を聴取し、意見交換を行った。

#### 伊関 功滋委員（加藤ゆうすけ議員の代理出席、政策検討会議 副委員長）

- ・大津市議会は、議会事務局の権能が非常に強い。また、議会局という形で政策立案のグレードアップと議員の仕事のあり方を見直すべきと感じた。

- ・可児市議会は、議員側が新しいことに積極的に取り組んでいる。また、市民からの意見を聴くのに様々なツールを使っているので取り入れるべきと感じた。

## 工藤 昭四郎委員

- ・大津市議会は、議会基本条例の具現化、議会活動に対する市民への説明責任、専門的な知見の活用、議員任期4年間のミッションロードマップを活用した議会の見える化を進めており、ぜひ本市でも取り入れるべきと感じた。
- ・可児市議会は、市民の声を議会に反映させるために、5年に一度、議会改革のためのアンケート調査を実施し、議会の見える化を推進している。
- ・若い世代との交流サイクルとして高校生議会、ママさん議会を行い、市民からの提言、要望を取り入れており見習うべきと感じた。

## 角井 基委員

- ・政策形成サイクルの評価を検討すべき。
- ・大学との連携で外部評価や研修を行っていくべき。
- ・大津市議会は、議会報告会をやめて職能団体との連携強化、意見交換にシフトしている。

## 嘉山淳平委員（広報広聴会議 委員長）

- ・市民の声をいかにまちづくりに反映していくかということを両市議会とも重要視していた。そういう意味では、議会改革として何を行うべきか見えない状態なので、まずは議会として市民アンケートを行うべき。
- ・議会改革の取り組みをミッションロードマップに入れた形で作るべき。
- ・広報広聴機能の強化として、議会だよりの中身の刷新、議会HPのリニューアル、若者議会、ママさん議会の開催をすべき。
- ・傍聴者に分かりやすい議場スクリーン、プロジェクターの導入をすべきではないか。

## 田中 洋次郎委員

- ・広聴についてはママさん、学生だけでいいのか、ただ単に裾野を広げるだけでいいのか精査する必要がある。
- ・大津市議会は議会報告をやめている。広聴については議会全体でやるのか、個人レベルでやるのか、会派レベルでやるのか、バランスを考える必要がある。
- ・大学との連携は、大学にとってプラスになるような形で今一度考えるべき。
- ・主権者教育は、高校生の時点で経験ができれば政治への関心が非常に上がるのではないかと。

## 山本 けんじゅ委員

- ・ 大学との連携は、大学にとってメリットが生まれるのであれば拡大を検討すべき。
- ・ 大津市、可児市ともに人口規模が違うので現状維持の方がいいこともあると思うので慎重に議論を深めていきたい。
- ・ 広聴については個人レベルでやるのか、会派レベルでやるのか、議会全体で取り組むのか、慎重に考える必要がある。
- ・ 事務局の負担を考慮し、議会局の必要性も考慮すべき。

## 石山 満委員（政策検討会議 委員長）

- ・ 議会改革をロードマップに落とし込み市民に見えるようにすべきということで検討課題として提案する。
- ・ 新しい意見聴取、広聴のあり方の1つの方法としてアンケート調査が有効と感じた。
- ・ 課題別のターゲットを絞った意見聴取のあり方も非常に効果的で参考になった。

## 渡辺 光一委員

- ・ 大津市議会が議会報告会をやめた決断をされたのは勇気ある決断だと思う。
- ・ 議会報告会は各議員が活動報告等を年に2回、義務的に行っていけば今

よりももっと多くの市民意見を聴取できると感じた。

- ・ 議会アンケートは、市民意見を聞くということで1つの方法として検討すべきと思う。
- ・ 議会改革の成果というものを確認しながら取り組んでいくべきと思う。

#### 本石 篤志委員外議員（広報広聴会議 副委員長）

- ・ 大津市議会は、ミッションロードマップを毎年1回、3月に進行管理をしているということで、しっかりとPDCAサイクルが働いていると感じた。
- ・ 可児市議会は、多角的に議会報告会を展開し、一定の広報広聴の効果が表れている。

#### 井坂 直委員外議員（広報広聴会議 委員）

- ・ 議会改革は、市民に議会の存在をどう身近に感じてもらうかという議員の活動がポイントではないか。
- ・ 防災の観点から議会として地域の防災訓練に参加し、意見交換したらどうか。
- ・ 議会事務局の強化も議会改革には必要不可欠であると考えている。

以上のとおり、各委員等から意見があった。そして、協議の結果、次の3点について今後、議会運営委員会で協議していくことと決定した。

- (1) 議会改革の見える化としてロードマップに議会改革の工程を織り込む
- (2) 議会改革のために議会に対する市民アンケートを検討する
- (3) 特定の対象者から、又は特定のテーマに関して意見を聴取する機会を設けることについて検討する

### 【委員長の所感】

今回、初の試みですが、議会運営委員会の視察実施後に意見交換をさせて頂き、委員会として共通の協議事項をまとめる事ができました。全国をリードする議会改革を進めている大津市議会と可児市議会を視察させて頂き、両市議会の思いを直にお聞きすることができたからこそ、視察メンバーの共通認識ができ、結果的に3点の協議事項をまとめられたことは、議会改革を前に進める上で非常に有意義でありました。

今後、横須賀市議会として議会改革を進める上で重要な視点としては、市民への議会の見える化を進め、横須賀市議会の現状を客観的に知った上で、効果的な取り組みをすべきであり、任期の4年間でどのような成果が出たのか市民に分かりやすく開示すべきであると思います。まずは、この部分から議論を進め、市民から信頼される議会を目指し、議会改革を着実に進めてまいります。